

「美馬市人口ビジョン」の点検と今後の方向性について

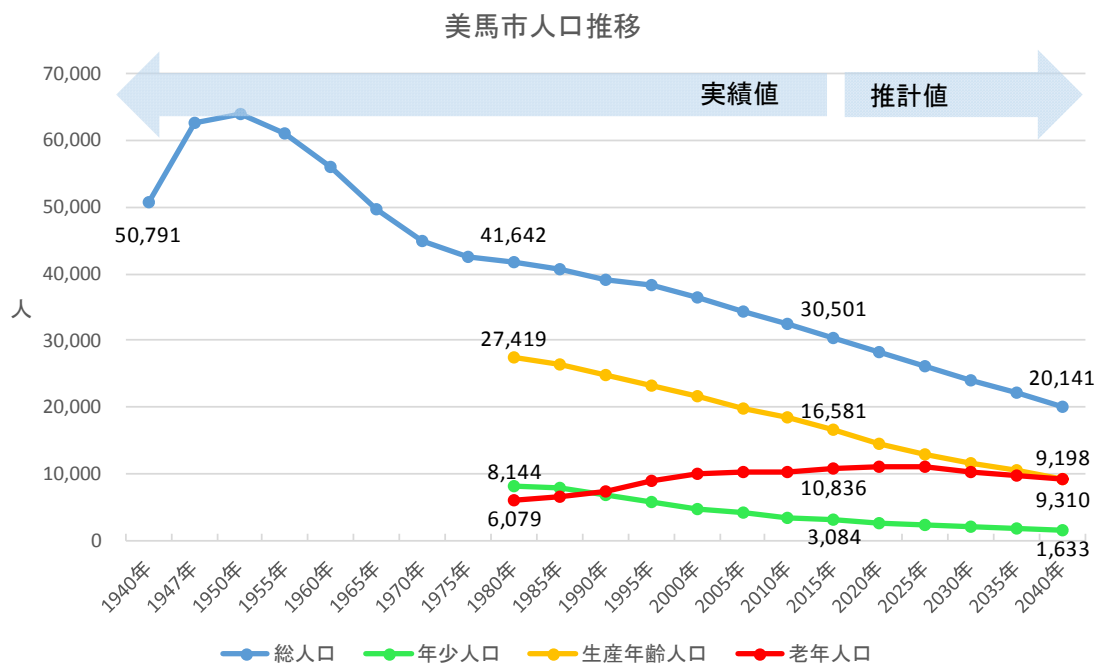
美馬市では平成27年10月に平成25年に国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の地域別将来人口推計」（以下「平成25年推計」）等をもとに「美馬市人口ビジョン」を策定した。次期総合戦略策定の指針とするため、平成30年に発表された「日本の地域別将来人口推計」（以下「平成30年推計」）等を参考に「美馬市人口ビジョン」の検証を行い、今後の方向性を示す。

1. 人口動向分析

(1) 人口の推移

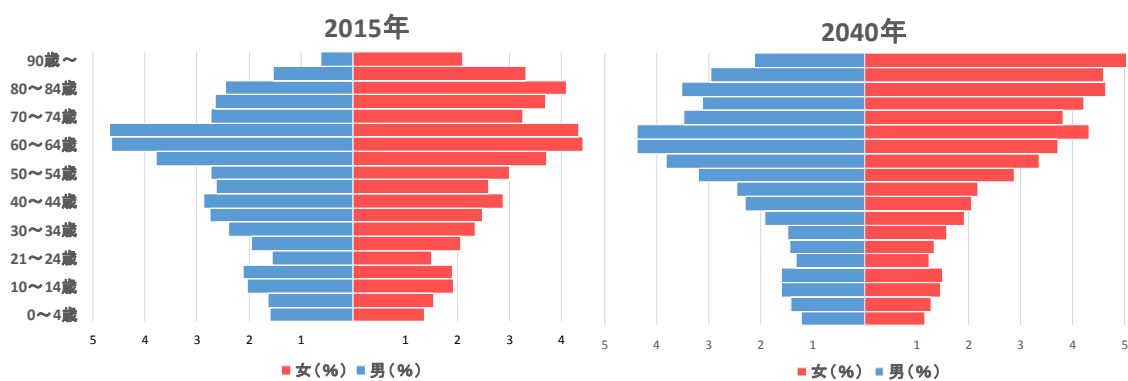
① 年齢3区分別人口

- ・ 高齢者数は横ばいとなるが、総人口が減少するため高齢化率は上昇を続ける。
- ・ 2040年に高齢者人口が生産年齢人口を上回る見込となる。



② 人口ピラミッド

- ・ 男女ともに後期高齢者の割合が増加し、逆ピラミッド化が進行する見込みとなる。



○ 老年人口 (65 歳以上): 10,836 人 (36%)

○ 生産年齢人口 (15 ～ 64 歳): 16,581 人 (54%)

○ 年少人口 (0 ～ 14 歳) : 3,084 人 (10%)

○ 老年人口 (65 歳以上): 9,310 人 (46%)

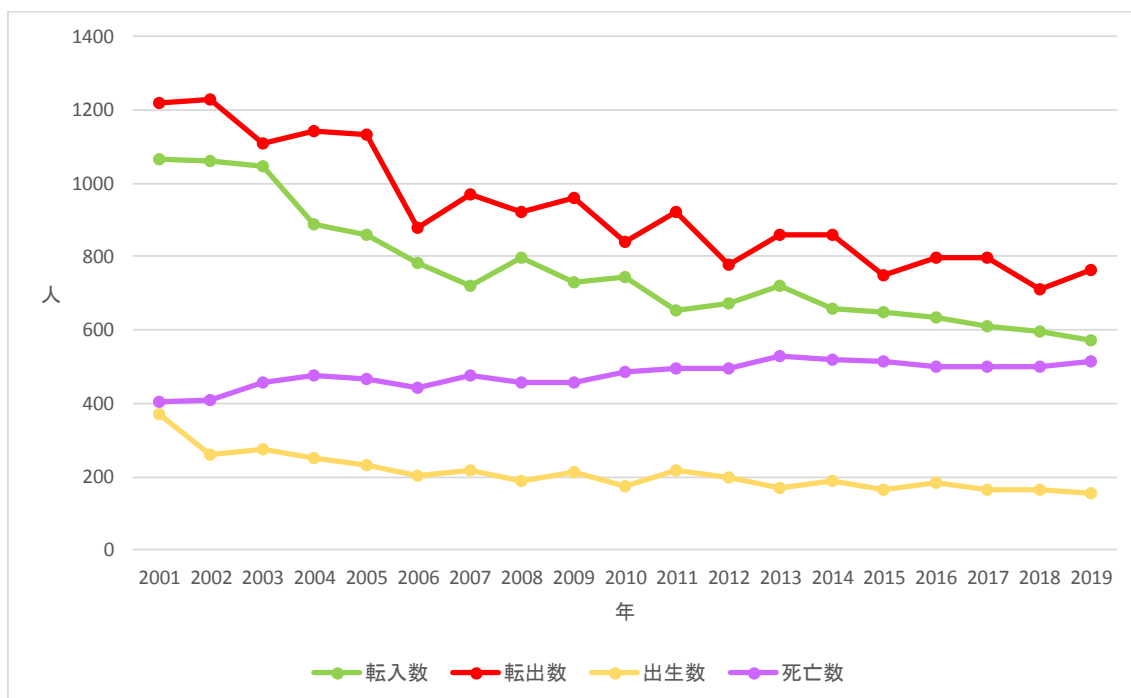
○ 生産年齢人口 (15 ～ 64 歳): 9,198 人 (46%)

○ 年少人口 (0 ～ 14 歳) : 1,633 人 (8%)

(2) 人口の動態

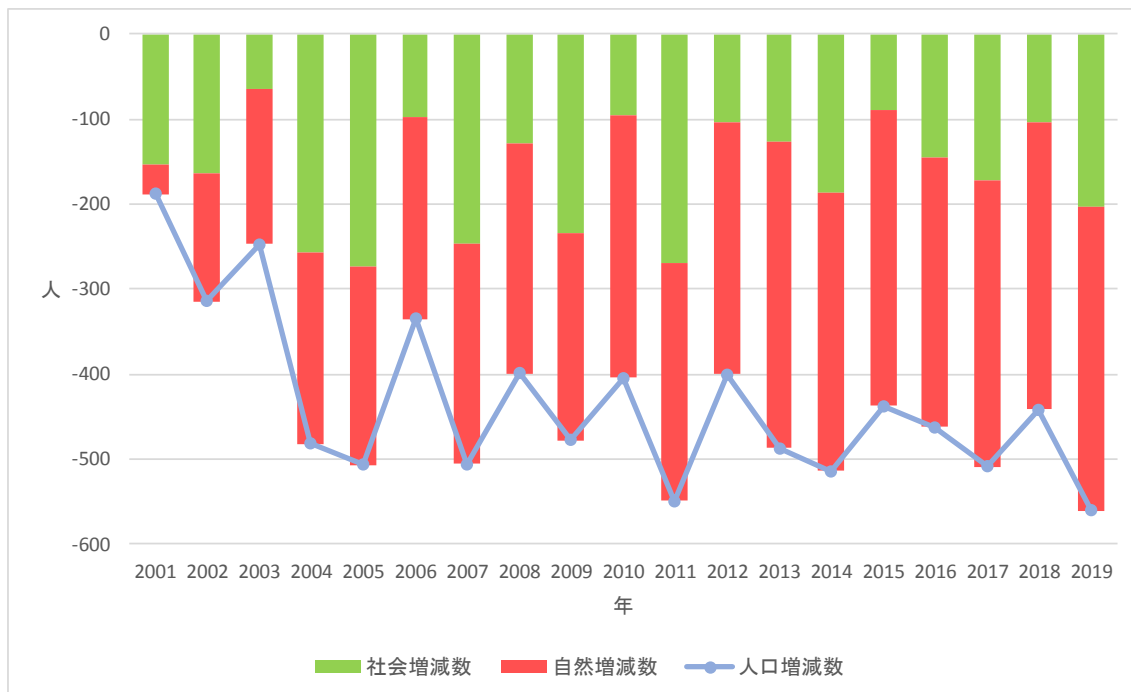
①出生数・死亡数／転入数・転出数

- ・自然増減については死亡数が出生数を上回る自然減少が継続している。
- ・社会増減については転出数が転入数を上回る社会現象が継続しているが、転出数・転入数ともに減少傾向となっている。



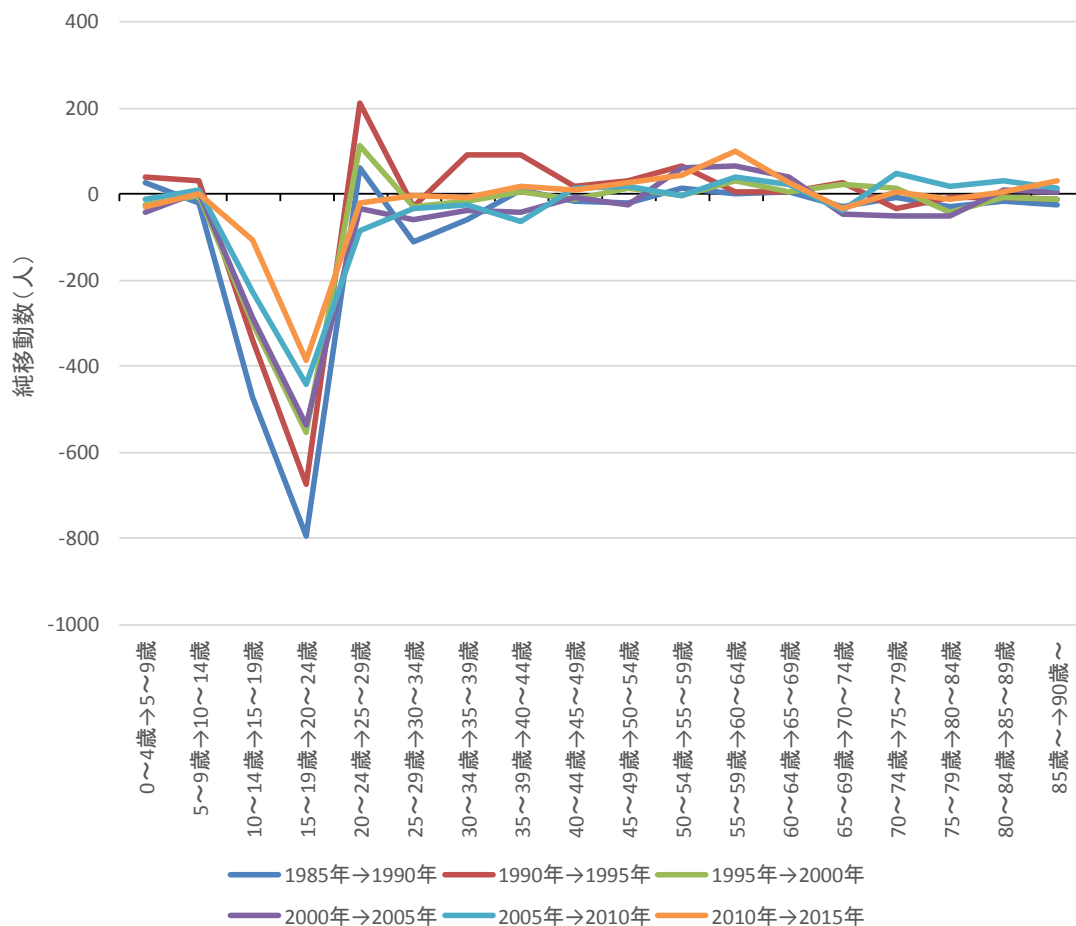
②自然増減・社会増減の推移

- 自然減の拡大化、社会減の均衡化に伴い、人口減少の影響度が社会減から自然減へシフトしている。



(3) 年齢階級別純移動数の時系列分析

- 15歳～19歳→20歳～24歳の若者層の転出は弱まったが、20歳～24歳→25歳～29歳の転入も弱まっており、若者の減少傾向は変わっていない。
- 転入、転出ともにふれ幅が小さくなっている。



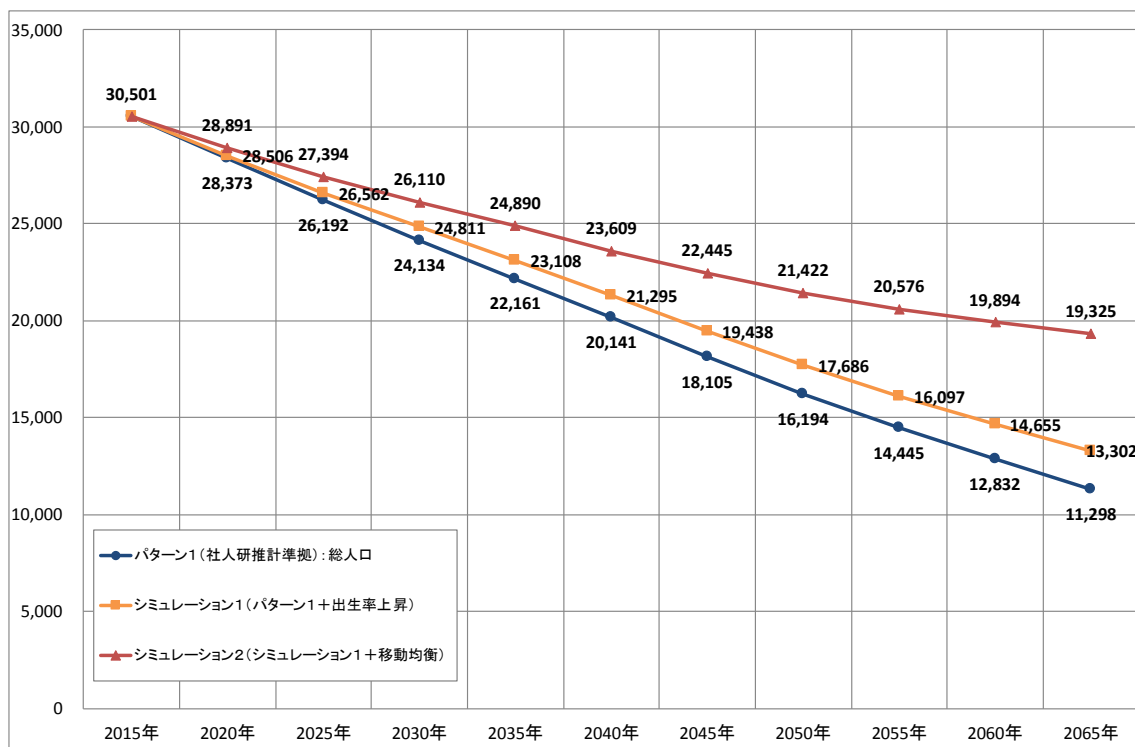
2. 将来人口の推計と分析

(1) 将来人口推計

- 平成30年推計（パターン1）では2060年に12,832人と大幅な人口減少となる。

（2015年の30,501人の42.1%に減少）

- 合計特殊出生率が改善する場合のシミュレーション1でも14,655人（2015年の48.0%に減少）、シミュレーション1に加えて人口移動が均衡するシミュレーション2においても19,894人となる。（2015年の65.2%）



○パターン1 全国社会保障・人口問題研究所平成30年推計値

○シミュレーション1 パターン1において合計特殊出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇すると仮定

○シミュレーション2 シミュレーション1の条件でさらに人口移動が均衡した場合

(2) 自然増減と社会増減の影響度 (将来)

・美馬市の自然増減と社会増減の影響度のランクはいずれも3であり、出生率の向上などの自然増減対策や社会増減対策のどちらの影響度も同程度に重要となる。この傾向は平成25年推計時から変化が見られない。

自然増減と社会増減の影響度(将来)

		自然増減の影響度(2045年)					総計
		1	2	3	4	5	
社会増減の影響度 (2045年)	1		北島町、藍住町	石井町			3 (12.5%)
	2		東みよし町	松茂町	徳島市、鳴門市		4 (16.7%)
	3		上勝町	小松島市、阿南市、 吉野川市、美馬市、 美波町	阿波市、板野町、 上板町		9 (37.5%)
	4			勝浦町、 佐那河内村			2 (8.3%)
	5		那賀町	三好市、神山町、 牟岐町、海陽町、 つるぎ町			6 (25.0%)
	総計			5 (20.8%)	14 (58.4%)	5 (20.8%)	24 (100%)

【出典】

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づき作成

【注記】

自然増減の影響度：シミュレーション1の総人口／パターン1の総人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。

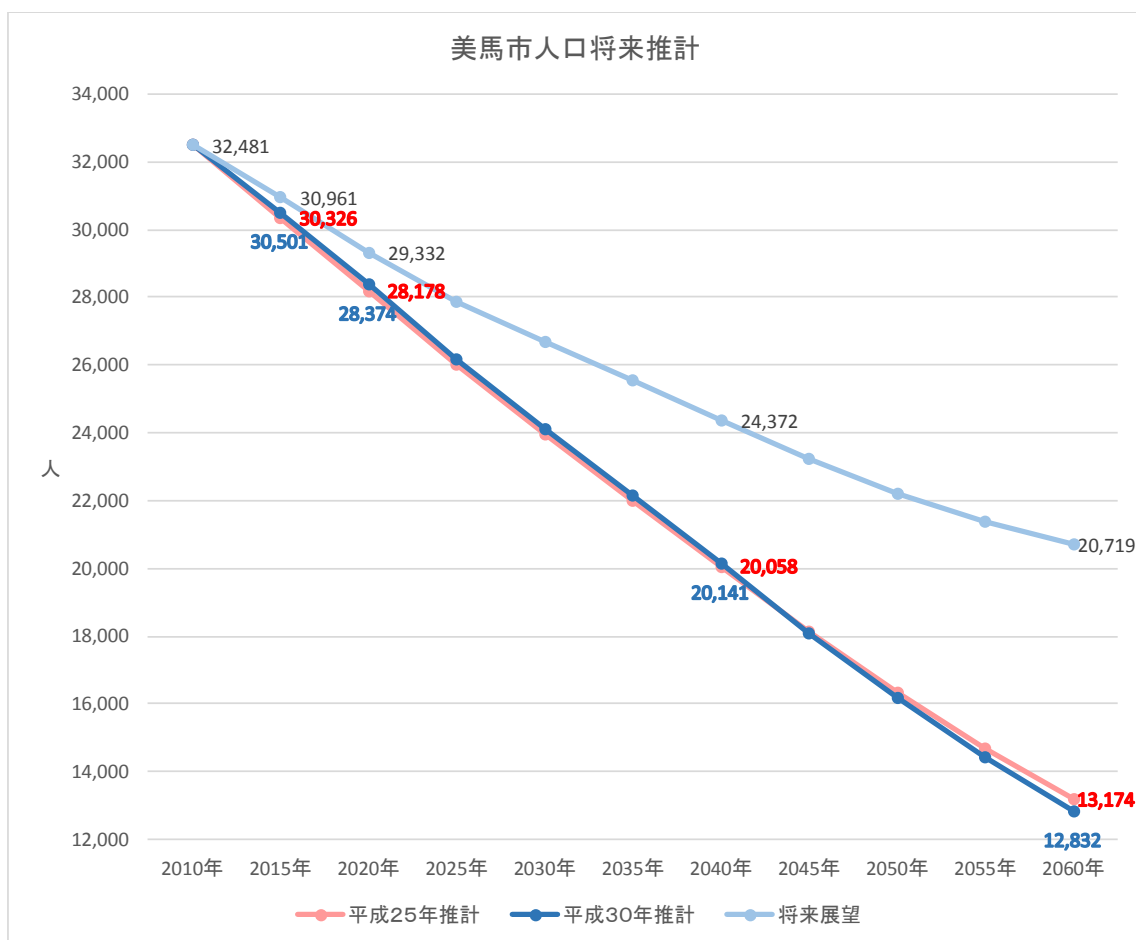
「1」=100%未満、「2」=100～105%、「3」=105～110%、「4」=110～115%、「5」=115%以上

社会増減の影響度：シミュレーション2の総人口／シミュレーション1の総人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。

「1」=100%未満、「2」=100～110%、「3」=110～120%、「4」=120～130%、130%以上。

3. 平成25年推計との比較

- ・平成25年推計と平成30年推計に大きな違いは見られない。



◎ ギャップ：2060年 7,887人（20,719人－12,832人）

4. 人口の将来展望

本市においては平成25年推計と平成30年推計に大きな変化はないため引き続き2060年に人口約2万人程度の維持を目標とする。また、自然増減と社会増減の傾向にも変化がないため引き続き両者のバランスをとった施策を進めていく。年齢構成は平成25年推計よりも高くなることが予想される。